
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2008年12月9日号

©2008年10月における中国の油糧・食油市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2008年10月における油糧・食油市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

※ この記事は、中国農業部の了解を得て、独立行政法人農畜産業振興機構が翻訳提供しているものです。内容の一部または全部を転載等する場合は、資料元が当機構によるものである旨を必ず明らかにして下さい。

1 2008年の全国の油糧作物生産は増加、3年連続減産を回避

中央政府による油糧生産支援政策措置により、昨年以降市場価格が比較的高水準であったことを受け、2008年の油糧播種面積は大幅に増加し、油糧生産量は増加が見込まれ、3年連続減産となることが回避される見通しとなった。現在、主産地のアブラナは播種・発芽及び生長段階にあり、一部の地区では移植が絶え間なく行われている。全体的には、天候及び土壌湿度は油菜の生長及び移植に有利な状況にある。

2 2008年第1～3四半期の中国の油糧輸入は大幅に増加、食用植物油輸入は減少

2008年第1～3四半期の中国の油糧輸入量は、前年同期比30.9%増の2,961.2万トンとなった。そのうち、輸入菜種は同3.8%減の71.9万トンであった。油糧輸出量は同4.0%減の92.8万トンで、うち輸出落花生は同14.4%減の40.7万トンとなった。

食用植物油輸入量は、同2.3%減の605.7万トンとなった。そのうち、輸入パーム油は同3.2%増の400万トン、輸入菜種油は同33.8%増の19.2万トンであった。同じく食用植物油輸出量は、同49.6%増の19万トンとなった。

3 2008/09年度の世界の油糧生産量は増加、需給ギャップはやや緩和

ドイツの『油世界』の予測によると、2008/09年度の世界の菜種生産量は、前年度比11%増の5,530万トンとみられている。大豆生産量は同7%増の2.395億トンと予測されている。米国農務省（USDA）は、2008/09年度の世界の油糧生産量を前年度比7.6%増の4.17億トン、期末在庫量を同1.7%増の5,765万トンと予測しており、前年度の需給ギャップはやや緩和された。また、世界の食用植物油生産量は同4.1%増の1.33億トン、消費量は同4.3%増、期末在庫量は前年度並みと見積もられている。

4 国内の油糧・食用植物油価格は大きく下落

油糧及び食用植物油の国際価格が大幅に下落したことを受け、国内の油糧及び食用植物油輸入が大幅に増加したことに加え、国産油糧が大量に市場に出回ったことなどもあり、2008年10月の国内油糧・食用植物油価格は大幅に下落した。うち食用植物油価格の下落幅は、20%にも達した。10月下旬に中央政府が菜種の臨時買上政策を実施したことから、菜種の買付価格は小幅ながら上昇したものの、流通量は比較的小さかった。主な原因は、①現在の市場価格が国家備蓄価格よりも低く、売り惜しみ心理が作用したこと、②菜種油の価格が持続的に下落し、压榨工場の買入積極性が高くなかったことが挙げられている。

2008年10月の湖北地区の菜種の工場渡し価格は1トン当たり3,553円で、前月比10.8%安・前年同月比7.7%安となった。同じく四級菜種油の工場出荷価格は同8,000円で、同月比20.2%安・前年同月比12.6%安であった。山東地区の二級落花生仁（種子の中の食べられる部分。殻むき落花生）の卸売価格は同6,100円で、前月比9.8%安・前年同月比22.9%安であった。四級落花生価格は同12,900円で、前月比13.7%安・前月比14.8%安となった。

5 国際市場の油糧・食用植物油価格は大幅安

2008年10月の油糧・食用植物油の国際価格は、大幅に下落した。同月のカナダの菜種のCNF価格（C&F価格、1990年の国際商業用語改正後はCFR価格：運賃込み価格＝FOB（本船渡し）価格＋運賃。以下同じ）は1トン当たり430ドルで、前月比22.6%安・前年同月並みとなった。南米の未精製大豆油のCNF価格は同875ドルで、前月比19.5%安・前年同月並みとなら。マレーシアのパーム油（融点24℃）の離岸価格（本船渡し（FOB）価格）は同590ドルで、前月比24.9%安・前年同月並みとなった。

また、同月の山東省の輸入大豆油の通関渡し価格（Duty Paid：CIF＋関税等）は同6,870円で、当地の国産大豆油の工場出荷価格に比べて同20元高かった。カナダ産菜種の通関渡し価格は、国内の菜種の工場渡し価格に比べ、同180元高かった。